

梨の品質向上に向けた生産管理 とブランド化支援

湖東農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

彦根梨生産組合(21戸、9.6ha)では、彦根梨をブランド化することにより産地の活性化と収益性の向上を目指しています。

平成19年度から光センサー方式による選果機を導入し、糖度、熟度など内部品質に基づく出荷を行っています。幼木園の収穫が始まったことから生産量は増加してきていますが、園によっては糖度不足などにより、面積当たりの出荷数量にバラツキがあります。糖度不足の主因は密植による弊害と考えられことから、間伐を推進し、受光体制の向上と根部の育成を図るよう支援してきました。また、芽かきや、摘心などにより受光体制の改善や適正着果量の励行により、糖度の向上が期待できます。そこで本年は、栽培基準に沿って生産管理することにより、組合全体の技術の向上を図り、産地ブランド育成を促進することを目標に支援しました。

【普及活動の成果】



光センサーにより選別された梨

収穫量が増加するなか、農業技術振興センターや県果樹連梨部会の協力を得て、消費者ニーズの把握のために来店者調査やグループインタビューを行いました。今後は、この成果から具体的なブランド化の戦略策定に向け、組合員、関係機関が一丸となって取り組んでいきます。

生育期間中は全体研修会「三水会」により、栽培技術の統一と適期作業を促しました。

昨年は、7月の降雨等により、糖度低下や変形果等が発生し、規格外品は昨年より多くなりましたが、果実肥大は良好となり、出荷量は前年の12%増となりました。



グループインタビュー